

高校生のころ、  
父から日本について  
話を聞き、  
感動した私が  
いまでは日本で  
働いて14年目に  
なります。



キルギスから来日し、神戸の化粧品会社「しあわせ堂」専務取締役を務めるバイボスノフ・ナズムさん。  
立命館宇治高校で、高校3年生を対象に、異文化理解講座の講師をしていただきました。



立命館宇治高校では、高校3年生を対象に、異文化理解講座を実施しています。一方PREXでは、日本にいる外国人の経営者に研修での講師を依頼したり、日本企業で働くベトナム人社員リーダー育成研修を実施したりと、日本で働く外国の方々とのネットワークがあります。日本で働く外国人はここ数年で大変増えており、日本に住む外国の方と日本の方との相互理解や交流がとても大事になると実感しています。今年、立命館宇治高校から異文化理解講座について相談を頂いたことで、講座がそれを実現できる第一歩と考え、キルギスから来日し神戸の化粧品会社「しあわせ堂」で働くナズムさん、そして、ベトナムから来日し東大阪の株式会社中農製作所で働くホアンさんとタンさんに講師を引き受けていただきました。(国際交流部 瀬戸口)

## 高校生がバイボスノフ・ナズムさんに質問し、キルギス観光ツアーを考えました。

### ■ナズムさんは、なぜ日本に来たのですか？

私が高校生のころ、父が日本を訪ねました。その後日本についていろいろと話を聞き、それに感動した私は日本へのあこがれが生まれ、日本に行きたいと思うようになりました。そして大学は日本語が学べるキルギス国立大学の東洋学部に入學しました。大学3年生の頃、日本政府(文科省)のプログラムで日本へ来ました。

### ■その後、日本で働くようになった理由は？

大阪外国語大学で日本語を1年勉強し、大阪大学法学部に入學しました。日本での生活にも慣れ、キルギスに帰国せずに日本で仕事をして、様々なことを経験して身につけたいと思うようになりました。学生のころに今の会社で翻訳の仕事のアルバイトをしていたこともあり、卒業してからそのまま就職しました。

### ■日本での生活はどうか？

既に日本に来てから14年が経ちました。結婚もして、先週娘が生まれたばかりです。妻はキルギス人で、なぜ日本でないといけなのか?と言われることもありますが、日本に長く生活していることもあり、キルギスでの生活よりも日本での生活が自然になってきています。

### ■日本語がとても上手ですが、苦勞はしませんでしたか？

実はキルギス語と日本語は同じアルタイ語系ですので似ているところがあって、覚えやすいです。最初、漢字には苦勞しましたが、今は頭の中ではキルギス語とロシア語と同じくらい日本語で考える場面も増えています。

### ■日本にはどれくらいキルギスの方がいますか？

今、500人ぐらいのキルギス人が日本にいますが、その半数以上は東京近郊に住んでいます。多くは留学生です。関西には30人ぐらいがいます。時々集まって交流したりします。

●ナズムさんの授業では、キルギスをより身近に感じてもらうため、学生にキルギスの観光ツアーを考えて発表してもらうことになりました。

コース① ビシュケク観光(オシュバザール、伝統音楽を聴きながらランチ)→アラアルチャ国立自然公園  
コース② アニマルマーケットで馬を買う→プラナタワーを馬で訪ねる→その馬で遊牧民ワールドカップに参加  
といった、ユニークな企画が発表され、ナズムさんも興味深く聞いていました。

★ナズムさんの感想:キルギスの観光情報が日本語では非常に少ないので、キルギス観光ツアーを企画してもらうことは、不安でしたが、皆さん頑張って情報を集めて、とても良いプレゼンテーションを用意してくれたことに感動しました。また、学生の中に、今から商品開発やビジネスチャンスのことを考えている人がいることにも感心しました。単にどこか安定したところに就職して、そこで一生懸命働くという考えとは違い、若いころからビジネス思考を持っていることは素晴らしいと思います。そのような若者が日本でこれから、もっともっと増えてほしいと思います。彼らこそ将来、日本経済を引っ張っていくリーダーだと考えます。



## at 立命館 宇治高校

### ベトナムから来日し、東大阪の株式会社 中農製作所で働く、 タンさん(左)とホアンさん(右)に質問しました。

#### ■来日した理由を教えてください。

大学で学んだ知識を活かして、発展している国で技術を使いたいと思うようになって、日本に行くことが夢になりました。もちろんベトナムに比べると給料も高いですが、それだけではなく、会社の環境の良さやものづくりの品質の高さ、工場が清潔であることなどから、日本の企業で勉強したいと思いました。

#### ■日本の文化で好きなことは何ですか？

お花見は良い文化だと思います。桜を見るということはベトナムではしません。家族や友人が集まって、桜の花の下でお酒を飲んだり話をしたりするのは、とてもいいことだと思います。

#### ■日本で困ることはどんなことですか？

日本語では困ることが多いです。来日時は挨拶程度しか日本語ができなかったので、買い物一つでも苦労しました。

#### ■どこで日本語を学んだのですか？

東大阪のボランティアの方に1年半ほど日本語や日本の文化について教えてもらいました。

#### ■日本のいいところはどこだと思いますか？

日本の人は親切で、みんなが一緒に会社や国の将来のために頑張っているところがいいところです。我慢強いと思います。また、町の中は清潔で安全だと思います。

#### ■日本の人をお願いしたいことはありますか？

外国人にもう少しコミュニケーションをとってもらえると嬉しいです。恥ずかしいのかもしれませんが、ベトナム人であれば「シンチャオ (こんにちは)」だけでもいいと思います。

#### ★講座に参加した高校生の感想

- ・僕の見えている世界はとても小さかったと思った。だからこそ、いろいろな国について調べて実際に行ってみたい。この授業で自分が何も知らなかったことに気づかされた。
- ・知らない間に外国人の方を傷つけているかもしれない。私たち自身はもちろん、外国人を受け入れている日本の企業も、外国人の方の働き方について考えることが必要になると思った。
- ・在日外国人が抱える問題を関係ないと放っておくのではなく、一緒に考えて解決していく必要があると思った。
- ・もっと日本に来たいと思ってもらえるような国を作らないといけないと思ったし、私自身もできることからやっていきたい。一番大切なのは積極的な行動だと思うから、そういう気持ちを大切にしていきたい。
- ・今後の社会は、人種差別のような行動を無くしていかないといけないし、全ての人が幸せに暮らせる世の中にしていくべきだ。
- ・キルギスという国はあまり馴染みがなかったけど、ナズムさんの話を聞いてとても身近に感じました。日本語と文法が似ていたり、顔が似ていたりしたので親近感が湧きました。
- ・同じ国の仲間がほとんどいない中でも活躍しているキルギスの方の姿知り、挑戦していくことが大切だと感じた。自分もみんなの知らないような国や地域でも自分の文化を伝えられるような人になりたいと思った。



大和合成株式会社でプラスチック成形加工を担当している  
 チュンさん(右)と取締役営業部長兼技術部長の中島 真敏 氏(左)

2014年から始まった「PREXベトナム人リーダー育成研修」。研修に参加した皆さんは、学んだことを自分の企業で実践しようと奮闘されています。3人のベトナム人リーダーからは、今の職場での課題や悩みを、また上司の方々からは、現場を引っ張るリーダーの皆さんへの励ましをお話いただきます。

**大和合成株式会社のチュン**です。ホーチミン市の工場に勤務していて、2017年から2年間、日本の工場に働いています。来年は、ベトナムに帰り、工場に働くベトナム人に日本で学んだことを伝えるのが私の役目です。2018年にPREXの「ベトナム人リーダー育成研修」に参加しました。研修では、様々な企業を訪問し、経営理念の大切さやカイゼン活動やチームワーク、人材育成など日本の会社が大切にしていることを学びました。

研修後に、弊社は、創業100周年に向けたビジョン2039「プラスチックの“可能性を提案する”ファーストコールカンパニーになる」を策定しました。私は、品質スローガンを提案したのですが、これが最高のスローガンに選ばれ、毎日、ビジョンと共に工場で唱和するようになりました。社内の5Sは、毎月1回発表の場があり、よいものは実施する仕組みもできています。

研修で訪問した会社で学んだことをベトナムの工場でどう適用できるかも考えています。各リーダーの仕事の範囲を広げることで、カイゼン活動の意見が出やすくなる、と思っています。今はプラスチック成形加工を担当していますが、設計の仕事もわかるようになって、カイゼン活動に取り組みたいです。

**部長の中島**です。チュンさんは、研修を通じてたくさんのことを学んだと思います。一つでも自分のものにしてもらえればと願っています。チュンさんは、もともとスキルを高めることに一所懸命でしたが、研修受講後は、勤務後や休日に勉強し、先日、プラスチック成形技能検定2級(国家検定)に合格しました。通信教育(プラスチック)でも大阪府知事賞を受賞しており、感心しています。



株式会社中農製作所で課長に昇進したホアンさん(右)と、係長のタンさん(中央)。  
生産・生産技術部 部長 北山 茂 氏(左)。

**株式会社中農製作所のディン・バン・ホアン**です(右端)。中農製作所で働き11年目になります。2014年にPREXの「ベトナム人リーダー育成研修」に参加しました。研修に参加する前は、やる気をなくしたときもありましたが、部長に「会社のためにがんばれ」と言ってもらい、お金のために働くだけではないのだなと考えるようになりました。今は課長になり、25人の部下がいます。技術の管理だけではなく、人事も任されていて、人事の管理は難しいと感じています。

日本で働いているベトナム人は、①お金のために日本で働いている人 ② 経験・技術の勉強のために来ていて、ベトナムに帰って同じ仕事をしたい人 ③ 日本に残って仕事を続けたい人 に分かれると思います。全員に長く働いてほしいと思いますが、①のお金のために働いている人は、条件のよいところに転職します。②の技術を身につけたい人は、3-5年で転職して新しい技術を身につけようとしています。これらの人に、どうすれば残って会社のために働いてもらえるか、頭を悩ませています。

**ダン・バン・タン**です(中央)。ホアンさんと同じく、2014年にPREXの研修を受けて、自分が少しずつ成長していると実感しています。コミュニケーションをとることで、みんなとよく話をして、ホウレンソウを実践してもらったり、モチベーション向上のため、スキル表を作成して年4回確認したり、皆一緒に成長するため、いろいろなことに取り組んでいます。

**部長の北山**です。5月からホアンさんは課長(管理職)に昇進。タンさんは係長です。二人ともよく頑張ってくれていて、ホアンさんは、周りが見えるようになったところ、素直にごめんなさいと言えるようになったところを評価しています。今は、二人が日本にいる25人のベトナム人を引っ張っていただけています。それだけでも大変だと思いますが、これからは二人自身も次のステップにあがってほしいです。一緒に頑張りましょう。

# キルギスの映画産業と 人々の生活向上に貢献

シリーズ:母国で働く研修員



今回はキルギスの経営者チンギスさんをご紹介します。  
(写真中央)2015年度「中央アジアビジネス実務研修(B)」  
に参加した、キルギスを代表する映像制作会社のCEOです。  
国際交流部 瀬戸口

キルギスのチンギス・ナジロフです。2015年に研修に参加したことは、私の仕事と生活に大きなインパクトを与えました。日本人の働くことに対する倫理感や哲学に感銘を受け、「毎日小さなKAIZENをする」という姿勢で会社を成長させてきました。2018年にはキルギスで撮影された日本映画「ラーメン食いてえ!」の撮影に協力するチャンスも得ました。また昨年は映画産業と教育分野での活動を拡大しました。まず、アメリカの映画会社と「After the Rain」という長編映画を共同制作し、9月に全国の映画館で上映しました。興行実績もよく、高評価を得ることができました。また、若手の映画関係者の作品開発やPRの支援のための会社を設立するとともに、キルギスの若者のための映画学校の設立も準備しています。これによって、若者の夢の実現や障がいのある方の活躍の場を作るなど、キルギスの多くの人々の生活の質の向上に貢献できると信じています。わが社の成功は、日本の皆さんの知恵や知識をシェアすることで可能になるのです。

(Citylab Production Studio CEO、キルギス)



ナイジェリアのラゴス商工会議所のヘンリーさん(左)と中小企業専門の支援機関SMEDENで働いているレジーナさん(右)。日本に来る前は不安もあったようですが、来日中はどの研修員よりもいろいろなところに出かけ、研修も休日も学びの多い日々を過ごすことができたようです。国際交流部 前田(智)

ナイジェリアのラゴス商工会議所のヘンリーです。ナイジェリアからの報告シリーズ3回目となりますが、今回は日本での研修を、どう生かしているかお伝えしたいと思います。

私たちは、2019年7月、日本での研修「JICA中小企業振興のための経営強化(金融アクセス)研修」に参加できました。来日前は食事と言葉の不安がありましたが、日本に来てみると、たくさんの人が助けてくれたので楽しく過ごせました。今は研修で訪れた東京創業ステーション、神戸振興財団のような中小企業総合支援センターの設置に向けて奔走しています。

中小企業専門の支援機関で働くレジーナです。

日本は、調べれば調べるほど好奇心がわく国で、来日中も、学びたいことが次々と見つかりました。今は神戸振興財団で行われている「KOBE SELECTION」を私の仕事先でも実施すべく、予算も取り動いています。また、研修で身につけた知識をもとに、中小企業経営者へのセミナー開催にむけて、積極的に取り組んでいます。

# 当社初の 外国人社員が 誕生しました。

三元ラセン管工業株式会社 高嶋 博 会長(右)とインドネシア出身のアンドリーさん(中央)、指導員の山口さん(左)

大阪市城東区にある三元ラセン管工業株式会社 会長の高嶋博です。8月から、新しい仲間が増えました！当社初の外国人の社員で、インドネシア出身のアンドリーさん、32歳です。

彼は、インドネシアで英文科を卒業し英語の先生をしていたのですが、結婚して来日。日本語を習い、日本語検定2級を取得しています。ポリテクセンターで溶接を習い、資格も持っています。ハローワークで紹介され、文化の違いに対応できるか心配もありましたが、話しているうちに日本の文化に馴染んでいることが分かったので、来てもらうことにしました。

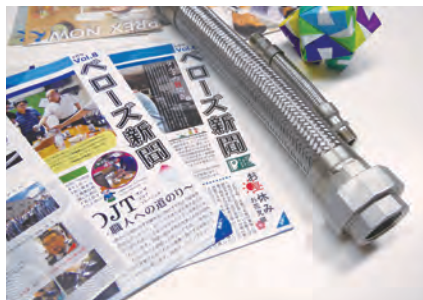
弊社は、社員数24名。年齢の幅は26歳から80歳です。80歳の方はシルバーセンターから来ていて半日ですが、うちの大事な戦力です。そんな多様なメンバーの中で、アンドリーさんは、すごく熱心で、ベテラン溶接士から毎日教育を受けて技術を身につけています。

アンドリーさんや、面接に来る日本人の若者にどうして前の仕事を辞めたのか、と話を聞くと、週休2日ではなかった、サービス残業があった、自分の仕事が終わっても帰れなかった、等の理由が多いです。弊社のペローズとフレキシブルチューブ(フレキシブルホース)の設計・製造の仕事には、技術を覚えなくてよい作業はありません。技術を身につけてもらった人にはずっと仕事をしてほしい。だから、完全週休二日制やパートタイマーの正社員化、教育訓練の機会づくりなど社員が辞めない会社作りをずっと目指してきました。

でも、中小の企業にとって、こうした制度を整えること、ましてや、PREXの「ベトナム人リーダー育成研修」に費用を払って外国人社員を参加させ、教育するといった余裕はないのが現実でしょう。しかし、うちのように、様々な背景を持つ幅広い年齢の人が、長く働き続けられることを大切にする考え方が少しでも広まっていくとよいと思っています。



PREX「ベトナム人リーダー育成研修」で訪問。何か一つでも参考になって、日本をひいきにしてくれる人が増えるとよいです。(高嶋会長より)



フレキシブルチューブと若手社員さんが作成しているペローズ新聞

# NEWS & TOPICS

HAPPY NEW YEAR! 2020年がいよいよ始まりました。  
近年、多くの外国の方が日本で働くようになってきました。また、今年は東京オリンピック・パラリンピックがあり、ますます異文化交流・異文化理解推進の一年になりそうです。  
今号の特集は『外国人と共に働く』。読者の皆様のご経験や、感想もぜひお聞かせください。  
お待ちしております。  
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

## 大阪サクヤヒメ表彰「活躍賞」を受賞しました!

国際交流部長 瀬戸口恵美子が、大阪商工会議所主催 第4回大阪サクヤヒメ表彰「活躍賞」を受賞しました。  
「大阪サクヤヒメ表彰」は、企業活動や文化的活動で活躍する女性リーダーを表彰するものとして、2016年度に創設されました。  
PREXは現在も女性職員が活躍する職場ですが、今後も女性リーダーの後進育成と活躍できる組織づくりに取り組んでまいります。



## マレーシアと大阪の公務員が意見交換「部下のモチベーションの引き出し方」

11月に実施した「JICAマレーシア中間管理職のための指導教育」では、部下のモチベーションの引き出し方について日本の公務員8名とマレーシアの公務員15名が、共同ワークショップで互いの工夫を共有しました!



## 「大阪3Sサミット」で帰国研修員の活動を紹介しました!



11月に開催された「大阪3Sサミット」に参加し帰国研修員による3S・カイゼン活動について発表しました。  
「大阪3Sサミット」は、3S活動を実践している全国の中小製造業者やサービス業者が集まり、相互の事例から自社の改善活動に活かすことを目的に毎年開催されています。

## 合言葉は「午後ティー」。

「JICAミャンマー日本人材開発センター本邦研修」ではミャンマーのビジネスコース受講生15名がキンピバレッジ湘南を訪問しました。写真を撮る時の掛け声は「午後ティー」。研修員の皆さんは、この合言葉を大変気に入って、その後の訪問先でも写真撮影は必ず、「午後ティー」でした。



最終日も、民族衣装を着て「午後ティー」!

## おススメ図書のご案内 「アフリカを見る アフリカから見る」

アフリカ貿易投資の研修で講義いただいている立命館大学 国際関係学部の白戸圭一教授の著書です。「現代アフリカ情勢について学ぶだけでなく、アフリカという鏡に映し出されている日本の姿を観察し、日本の再生に向けた手がかりを得たいとの思いから、この本を書きました」(白戸先生より)



PREX NOW第258号(2020年1月発行)  
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター  
専務理事・事務局長:岡本 譲  
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6  
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850  
ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>  
E-mail: [prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp](mailto:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp)  
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー